
音楽表現の指導法について

—オーケストラと歌う・杜のうたこども合唱団における実践報告—

会津大学短期大学部 社会福祉学科 特別講義講師
桐朋学園大学音楽学部非常勤講師
渡部智也

I. はじめに

児童の発声、音楽表現の指導について、現在指導者として活動しているなかで、経験したことの中から、とくに合唱団での実践報告について示すこととした。

II. 活動の内容について

1. 活動団体の成り立ちとその背景

オーケストラと歌う・杜のうたこども合唱団（以下「杜のうた」）の活動について述べることにする。合唱団のなりたちは、東京都立川市に事務所を持つ、「特定 NPO（現在は認定 NPO）おんがくの共同作業場」（以下 NPO）の中で創設された「オーケストラと歌う子供合唱団」である。オーケストラと歌うということを掲げている理由としては、オーケストラの豊かな響きの中で歌うことにより子どもの感性を養い、また大きな舞台に立つ経験をすることが、その後の音楽に対する感性を大きく育み、またそれを希望する多くの子どもたちがオーケストラと共演できる機会を得られるようにするためである。しかし、クラシック音楽のコンサートの中でも、オーケストラと共演するという機会は、演奏会場の規模や、人件費、それにとともなう練習回数などの経済面を考えると、子どもの合唱団はもとより、大人の合唱団でもかなり困難なものであるといえるため、NPO の活動団体の一つとして創設された。2000 年に創設されたのち（活動の歴史は別紙参照）、組織や指導者が変わるなどしながら、活動を続けて、2013 年度より指導者、事務局が現体制となる（筆者も正式な指導者として関わる）。そして NPO からの要望により、2015 年 6 月より、あらためて子どもたちにより多くの音楽経験をサポートすることが NPO の活動の大きな柱の一つであることとして、NPO 傘下の団体として活動を開始し、練習場所を優先的に使用できることや、夏合宿の補助などをうけている。

2. 活動と取り組み

通常の活動は隔週で土曜日 17 時 45 分から 20 時、日曜日は 9 時 45 分から 12 時に練習をしている。このような変則的な時間設定は、学校や学外活動などで参加者がかたよらないようにするためである。また、普段の練習の他に夏休みに 3 日間、清里のペンションで合

宿を行っている。

演奏会は、NPO 主催または後援によるオーケストラ伴奏のコンサート、2012 年より行われている東日本大震災「音楽復興支援コンサート」出演のほか、自主公演として毎年 9 月に団員一人が一曲うたうソロと合唱の発表会、12 月に立川市の教会でのクリスマスコンサートに出演している。

Ⅲ 指導者について

「杜のうた」の主な指導は 3 名、小学校音楽教員である女性（ボランティアでの参加）と声楽家、合唱指導者である筆者（男性）、女性ピアニストと、そして事務局を女性 2 人で行っている。成人女声（主にソプラノ）と女子、そして変声期前の男子の音域はほぼ同じであるといえるので、成人女声の指導者の声を聴くことは声のイメージをつかむために女声の指導者の存在は重要である。また元団員の男性（20 代）もアシスタントとして指導に加わっている。年齢が近いので、団員にとって接しやすい。

Ⅳ. 指導方法について

指導方法については別紙、「児童におけるヴォイストレーニング（技術または技術向上の方法論）について」を参照。

Ⅴ. 低学年への指導方法の実践例

「杜のうた」には現在、小学校低学年が 3 人在籍している。彼らの中には幼稚園から入団してものもおり、それぞれの音楽的能力に差がある。それぞれの性格とそこから効果的と思われる指導法をまとめた。

1. 女子 a (小 2)

内気な性格。練習中に指導者に話かけられても恥ずかしがって答えない。保護者や団員たちとは話す。発声や歌唱に対して、その場ではなかなかできないが、次の練習の時にはできる様になっている。内気な性格であるため、音楽的能力（声量、表現）が見えにくいことがある。練習の様子から、家庭でも保護者と十分練習しているのがわかる。できたことを褒め、自信を持たせることと共に、次の課題を出ことで、音楽に対する積極性を育むことが大切である。しかし、以前あまりみんなの前で褒めすぎたことで、逆効果になったことがあった。

2. 男子 b (小 2)

姉（小 6）と一緒に参加。姉や保護者が気になり練習に集中できないことを、よく指導者に注意される。練習に進行に合わせて歌うことができないが、時々うたう声はよく通り、音程もよい。休憩中は元気がよい。

落ち着きのない子には、とにかく注意をする。これは合唱というものが、個人行動では

なく団体行動であることを、本人だけでなく、団員にも理解させることが重要だからである。コンサートには20分以上はステージに立っていなければならないが、心配であったが、初めて出演したコンサートでは、動かずに立っていることができた。緊張もありほとんど歌うことはできなかったようだが、動かずに立っていられたことは成長だったと思う。また姉と一緒に参加しているが、グループ分けや2人組になるときは一緒にせず、他の団員と接する機会を増やしている。

3. 女子c (小1)

団員の中で最年少。土曜日の夕方のみ参加。入団してまだ日も浅い。普段から明るく、自分から指導者や他の団員に話しかける積極性をもっている。

積極性があるので、練習の進行についていけないときは、まわりの団員に聞くなどすすんで行動する。練習に対しても積極的であるが、自分のペースで歌うため、音程やリズムが不明瞭になることがある。ゆっくりなテンポで練習や、ペアになって歌うなど、声を合わせる練習を取り入れている。遅れて入団した団員に対しては、初めの数回は保護者の協力を得て家庭での練習や、別室で個別に指導を行うなど、全体に着いていける準備も必要である。

VI. おわりに

最後に練習時間以外（家庭）での練習は大いに勧めている。できるかぎり練習時間内で指導を完了するが、個々の課題を十分にこなすためには、保護者の協力のもと、家庭での練習が必須である。また普段の練習、夏合宿などや演奏会などのイベントには保護者の協力がなければ成り立たず、普段のコミュニケーションを大事にしている。